

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第79号 (2022. 8. 21-2022. 8. 28)

- ◆ 参加者 太代祐一、池田吉輝、ぼっぼ、石原とつき、ゆりのはな、
菊池洋勝、さー、白水ま衣、Eugene、岡村知照、風池陽一、石川聡、
syusyū、水の眠り、Tomo、najimi、西脇祥貴、おかもとかも、海馬
鷺沼くぬぎ、しまねごくん、式定住佳、棚場田敦也、たぶん、鴨川ね
ぎ、翠川蚊、西沢葉火、HAKIBIKI、まつりへきん、ゴト一、抹茶釜魚
あ、雲下晴也、夜間戦闘(れん)、藤井皐、あお、ともなう、さぶさ
ち、休庵下、月硝子、高良俊礼、crazy lover、輪井ゆう、星野響
電車侍、風花(かざはな)、東ごころ、春宵飯店、玖馬勝、日下呉
雷(らい)、蔭一郎、茶熊(ちくま)、小沢史、ソウシ、白猫、ぐんせん、
涼閑、木野清瀬、むくみんママ、麦野結香、達毘古、生・存、天やん、
睦月ヨシ、和泉明月子、naokom、宮坂変哲、思雨(スイ)、
Milliecent、AlmondKarte、児島成、たろりずむ、閲覧も時にはす
るTomoko、愁愁、歌眠、いずみ、玖々泉ろか、Eto、高梅仁、黒穂
2022、檜崎進弘、俳句愛、大本伸彰、EYES、名犬、ぼち、月波与
生(八七名)

◆ 7・7詩、5・7・5詩

おけら鳴くあいみよんばかり聴いてます 玖
抜け目ないバナナ勝手に負う負債 太代祐一
長男が行方不明になる家系 宮坂変哲
猫背とは一切関係ない噴水 おかもとかも
フリンジが付いてる夢は食べやすい 白水ま衣
夕闇のオルゴール化が止まらない 白水ま衣
馬肥ゆる秋に「は雪崩れ込む 蔭一郎
座右には最果タヒがありて処暑 玖
まくら木や戦車のように愛したい 西脇祥貴

万力に息を吹き込む中島みゆき 西脇祥貴

つゆだくにしたただけなのに虹だらけ 翠川蚊

跡形も残らぬような掏摸をする 翠川蚊

つくつくし目立たぬやうにいぢめられ SYUSYU

賢治は逆流し、しばし立ち止まる 藤井卓

ポケットに百年前の果し状 西沢葉火

法師蟬 余白はイアン・ギランのOh 石川聡

濡れながら咲く芙蓉 泣きながら笑うあなた 石川聡

法師蟬 大悲心陀羅尼をとなえ 石川聡

あれはもうダス・ゲマイネで処暑でげす 石川聡

神さまは双方向に慣れてない Ryu sen

うつくしい私信でしたねあの雨は 東こころ

指先のあなたが消えてくれません 東こころ

秋出水百科事典の扉から しまねこくん

出られないプールと謎の料理人 しまねこくん

聖書にも林檎カタログにも誤植 岡村知昭

ふしだらな赤のまんまのレム睡眠 玖

カルピスより濃いつきあい嫌だな 海馬

折鶴をほどけばこころり恥骨落ち 小沢史

荷造りの膝の埃や法師蟬 小沢史

痒い所にバンダが届く 白水ま衣

稲刈りや『展覧会の絵』のテンポ mgwort

秋鱈やフライの尻尾食べる人 菊池洋勝

遠くから花火の音だけして終わる気かよ夏 ゴトー

前髪をさらさらと切る昼下がり 玖々泉ろか

(憧れの)絵本作家の卓ジェツソ さー

お日さまのしもべの青や夏の花 風池陽一

刀豆や反りくり返って中二病 水の眠り

朝霧や埃出る身の置き所 Tomo

自然治癒待って心の夏終わる najimi

ミント また信じたいものだけをみて おかもとかも
半世紀以上生きても深爪す 鷺沼くぬぎ
積み上げた悔しさだけが生き証し 式定住佳
あとにして人身事故の梨の店 たぶん
ひとりきりサイケデリック盆踊り 鴨川ねぎ
もう意味が 花火大会 わからない HAKUBIKI
神様それは何費になるのですか? まつりぺきん
自販機がお金を掛けて有人化 抹茶金魚
秋はじめ ISM はじめちゃん あ
秋初め合着の鈕さがしをり 雲上晴也
何言語? プログラミングみたいな会話 あお
懐かしき故郷の風景 泪する。 一休庵
瓶底に刀豆余り深き味 月硝子
滅亡の清い音符に触れて秋 高良俊礼
弔い公費税金ばら撒く Crazy Lover
何も無い 私みたいな 冷蔵庫 HAKIBIKI
圧搾し澱んでいった夏でした 輪井ゆう
ラヴシーン掠めて過ぎる予報円 星野響
いわし雲 宿題帳は 残りけり 電車侍
初嵐心変わりも足早に 風花
西鶴忌ラマーズ法で潜る海 馬勝
舌先の口内炎が時速八十キロ 雷
勘違いしていた 時間を返せ 茶熊ささこ
ニーチェ? ニーチェ? つてどんな人 流天
失恋の読み方ググることなかれ ソウシ
山芋を掘るそして寂しさを掘る 白猫
鶴首にただ一輪の青いバラ 涼閑
地べた座し星も露草も 木野清瀬
帰省不可理由(わけ)だけ重ね秋の月 むぎのあわ
筑紫恋し法も知らない蟬ばかり 達毘古
單車乗り駆ける男は寒蟬か 生・存

届かぬを知りつつ灼けし怨嗟かな 天やん
夏の海一瞬にして波老ゆる ぽっぼ

画面越し 同じ曲聴く 夏祭り さー

頸椎がそっぽ向いてるレントゲン 睦月ヨシ

揺れるかもしれないぬ予感と猫の恋(季節外れ) naokom

ああそれ自分 上っ面は撫でるモノ 思雨

私の友人の友人がバルタン星人 児島成

見ただけで死体とわかるほど死体 たろりずむ

「しのぎやすくなつてまいりましたね」と目を伏せる 閱

覧も時にはする

いつの間にかうちが実家になっていた夏 Tomoko

くるぶしを小突くルンバや今日の秋 愁愁

またおなじところにいるね地縛霊 歌眠

クラブハウスサンドと食べる短歌論 いずみ

ビタミンAからSまでの右折禁止 月波与生

◆ 7・7、5・7・7・5以外の短詩

昨日へとタイムマシンで戻ってもきつとわたしはなんにも

しない 蔭一郎

洞窟のやうに明るく書庫はあり大西民子全歌集座す ぽっ

ぽ

多様性文化の例の一つとして忘れる膀胱がん問診票 ぽっ

ぽ

千鳥足「大丈夫かよ」血まみれ「ママは仕方なかったでち

ゅ」月でも見てる 石原とつき

死にたいとふと思う時胸元の第一ボタンをゆつくり外す

ゆりのはなこ

花火の灰がおちてきていちこの赤い色はくすんだ りんご

飴硬いね桃色の舌を笑ったりして 夜間戦闘(れん)

張り切って雑巾掛けで彎るぶくらはぎ古い怠け何の警告
ともなう

ド真ん中に頓馬印の落款をべとつくくらい押してみました
さぶさち

夕暮れに我も我もとカゴの中ポツンと残る定価の弁当 春
宵飯店

竜胆を探しに森に入り(いり) 鳥兜の気高さを知る 日下
昊

ああそうかポリアモリーの隙間には私のための座布団があ
る さぶさち

誰も来ない遊園地の片目が消えたパンダの乗り物に乗って
東京の高速を走りたい 夜間戦闘(れん)

ネットって時間を無駄にするだけとネットの中で鳴いてい
る虫 鷺沼くぬぎ

何もない過去を語れば驚かれ「それは虐待？」聞かれて気
付く 和泉明月子

日が早く沈む冬が来るのかと楽しみだけと寒くなるかと
Millicent. AlmondMilKlatte

◆ 詩

例え理解されなくともしつこく同じことを言い続けるのつ
て、そんなに大切なことなのか

しつこくて嫌がられるだけなんじゃないのかな
どこかの歌がうんざりするほどうたわれているのと同じ理
由かな (棚場田敦也)

幼き頃のあの笑顔

何がこうしてこんがらがったのか
哀しき兄妹 (むくみんママ)

◆作品評から

お爺ちゃんが大人の階段を下りてきちゃった たろりずむ
　　～大人の階段は「想い出がいっぱい」の歌詞を思い出す
が、認知症を発症したときの子供返りを深刻ぶることなく
伝えている。私の父も下りてきてしまった。(月波与生)

濡れながら咲く芙蓉　泣きながら笑うあなた　石川聡

～素敵ですね、涙が出そう (hori)

ミント　また信じたいものだけを見て　おかもとかも

～信じられないものが見え過ぎる。信じたくないことも。
だから気分を変えるためにミントを口に入れる。一粒、ま
た一粒。信じたいものだけを見んとして。(西沢葉火)

折鶴をほどけばころり恥骨落ち　小沢史

～折鶴に息を吹いて、膨らませたお腹に恥ずかしかった
ことを閉じ込めようと思った。だけど上手く出来ずに、折
っては解く。その度にあの時の恥骨がころりと転がって、
見られてしまう。恥ずかしい。(西沢葉火)

夕闇のオルゴール化が止まらない　白水ま衣

～光の階調の変化をオルゴール(の奏でる調べ)と把握す
る感性にハッとさせらるし、とても惹かれます。

暮れきったとき、オルゴールは止まるのか？ますます鳴り
続けるのか？ (石川聡)

秋みようがによこによこふえてゆく空き家　石川聡

～秋みようかと空き家はやや付き過ぎであるが「によこ
によこ」がすべてを丸く収めている。オノマトペによって
句は生きたり死んだり。(月波与生)

跡形も残らぬような掏摸をする 翠川蚊

〜掏摸（スリ）、難しい漢字ですね。知りませんでした。
（まつりぺきん）

長兄のサブタイトルが決まらない RvU sen

〜次男三男は決まっても長兄だけ決まらないサブタイトル。長兄は「長兄」というタイトルだけで言い尽くされてしまうのだろうか。ラオウの登場は長兄念願のサブタイトルであった。（月波与生）

要約をすれば全ては茄子である 白水ま衣

〜嘘をつくときは言い切ること。「茄子だろう」と言い換えてみれば切れの良さがわかる。川柳は切れ。（月波与生）

法師蟬 大悲心陀羅尼をとこなえ 石川聡

〜こんばんは。うちの曹洞宗でもやりますよ。日課経なので誦んじることが出来ます（高梅仁）

〜禅宗は大概詠みますよ。うちは曹洞宗ですがたまにお勤めで読み上げます。（黒穂2022）

万力に息を吹き込む中島みゆき 西脇祥貴

〜これは油圧式の万力ですね。油の代わりにみゆきさんのパワーが。（檜崎進弘）

遡上するまるでまるでまるでまるで おかもとかも

〜「ボクサー」という曲の Lie la lie, lie la la lie
Lie lie…とどうフレーズにかこつては〈嘘で嘘で嘘で…〉
という訳が付けられていたのを思い出した。（月波与生）

荷造りの膝の埃や法師蟬 小沢史

〜御作、好きです。埃につくつくの音が沁み入るようで、
渋いです。(石川聡)

座右には最果タヒがありて処暑 玖

〜「夜空はいつでも最高密度の青色だ」なら私も。(俳句愛
大本伸彰)

コンタクトレンズをつけるときの湖(うみ) 太代祐一

〜コンタクトレンズの窪みの中の湖。つけた瞬間わたし
は湖に満たされる。小さなものから大きなものへ、イメー
ジの広げ方がいい。(月波与生)

あれはもうダス・ゲマイネで処暑でげす 石川聡

〜太宰 読んでみたくなりました。知らぬことばかり
(mikiisuzu)

出られないプールと謎の料理人 しまねこくん

〜♪わたしたしは〜わたしたしはプールの料理人〜 人參鶏
肉皆浮かぶ〜 とお！(名犬 ぼち)